

三間分校生が製作したバリアフリーボックス



車いすでバリアフリーボックスの使い方を実演する三間分校生



## バリアフリー収納棚手作り

車いすや歩行器の利用者でも使いやすい収納棚「バリアフリーボックス」を北宇和高校三間分校（宇和島市三間町戸雁）の3年生4人が製作し、13日、市社会福祉協議会の福祉施設に寄贈した。生徒が利用者の立場で考え、培った溶接や切断といった技術を生かして完成させた。

バリアフリーボックス作りは、3年生の課題研究の一環で取り組んだ。4人は介護の基礎などを学んでおり、昨年4月から実際に車いすを使うなどして製作を進めた。

完成品は幅約1.1m、奥行き約0.4m、高さ約1.3m。台座には校内で廃材となっていたプリンター台を活用し、車いすの足置きが邪魔にならないよう空間を設けた。収納

### 北宇和高三間分校生 福祉施設に寄贈

部分には、片手で出し入れがしやすい市販のスライドボックス2段をボルトで固定し、安全面にも配慮した。

同市三間町迫目の市社協三間通所介護事業所で寄贈式が開かれ、生徒が車いすで使い方を実演。井上和哉さん（18）は「ぜひ使ってもらい、改善点があれば教えてほしい」と話した。施設管理者の山下洋史さん（44）は「形に残る物を作ってもらい利用者も喜ぶと思う」と感謝を述べた。

収納棚は、レクリエーションやゲームの用具入れとして活用する予定。製作に携わった竹本我夢さん（18）は「良い出来栄え。道具を入れたり、出したりの作業を楽に感じてもらえればうれしい」と語った。（長尾翼）